

石川真生  
OKINAWA

オキナワ



自分の人生さ。誰にも文句は言わせない。



愛を込めて

オキナワより

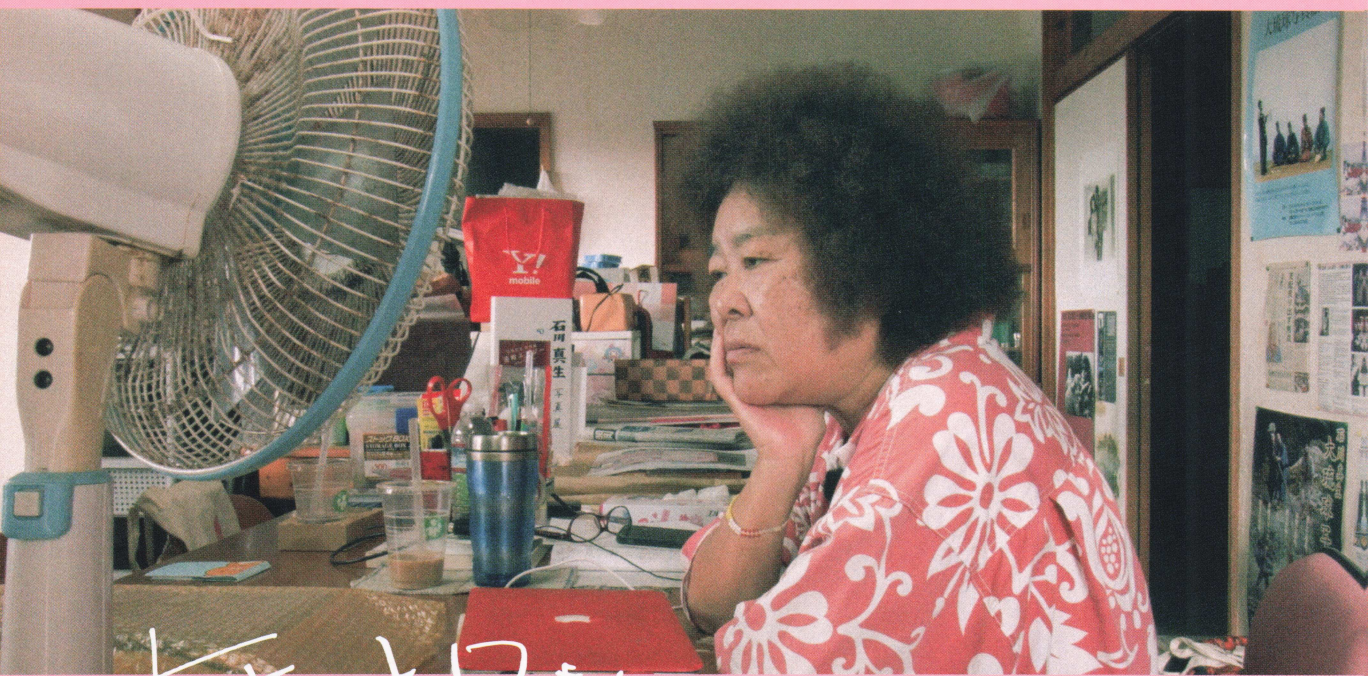
# FROM OKINAWA WITH LOVE

監督：砂入博史 出演：石川真生

カメラ・サウンド・編集：砂入博史 プロデュース：砂入博史・イトレ・パッパイヤー  
オーディオ・ミックス：アダム・スコット サウンド：吉濱翔 字幕：酒見南帆  
音楽：アダム・スコット、吉濱翔、米田哲也、北崎幹大、大塚修一  
協力：吉濱翔、仲里効、大橋弘基、大野亨然、大琉球写真絵巻実行委員会メンバー  
オリジナルサウンドトラック：「琉球ハイブリット」北崎幹大 2019、「オキナワより愛をこめて」北崎幹大 + 吉濱翔 2019  
2023 / 101分 / 日本・アメリカ / 日本語・英語  
early elephant film + 3E Ider © 2023 配給：ムーンプロダクション

# 醜くも美しい 人の一生、 私は人間が好きだ。

1971年11月10日、米軍基地を残したまま、日本復帰を取り決めた沖縄返還協定を巡り、沖縄の世論は過熱していた。労働者と、機動隊の衝突は、警察官一人が亡くなる事件に発展。当時、10代だった石川は、この現場を目撃した。同じ沖縄の人間同士の衝突がきっかけとなり、石川は写真家の道を志した。1975年、米兵を撮るために、石川はコザ・照屋の黒人向けのバーで働き始める。バーで働く女性たちや、黒人たちと時間を過ごしながら、日記をつけるように、石川は写真を撮り続けた。当時の生活が収められた3冊の写真集「熱き日々 in キャンパンハンセン!!」(1982)、「熱き日々 in オキナワ」(2013)、「赤花 アカバナ 沖縄の女」(2017)を手に、およそ半世紀経った今、当時の記憶を回想する石川。石川自身が「最も大事にしている写真」と語る作品、そこに納められた人々との物語が語られていく。写真家、石川真生による自由な生き方を肯定する「人間賛歌」が誕生した。



## オキナワより オキナワより愛を込めて FROM OKINAWA WITH LOVE

監督：砂入博史 出演：石川真生

# 愛を込めて

〔併映作品〕

「オキナワ・フィラデルフィア」

2022 / 56分 / 日本・アメリカ / 日本語・英語

監督：砂入博史

※劇場により、上映有無が異なります。  
詳しくは各劇場ホームページをご確認ください。



土門拳賞を受賞した写真家、  
石川真生の人間賛歌

石川真生（写真家）

1953年、沖縄県大宜味村生まれ。

1971年、11・10ゼネストを機に、写真家になることを決意する。1974年、WORKSHOP 写真学校「東松照明教室」で学ぶ。1975年、黒人兵向けのバーで働きながら、黒人兵とバーで働く女性たちを撮り始める。半世紀に渡り、沖縄を拠点に制作活動を続け、沖縄に関係する人物を中心に、人々と時間を共にしながら写真を撮り続けている。2011年、『HENCES OKINAWA』でながみはら写真賞を受賞。2014年から沖縄の歴史を再現した創作写真シリーズ「大琉球写真絵巻」を開催。2019年に日本写真協会賞作家賞、2024年には土門拳賞、芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。